

[成果情報名] 平坦地におけるスイートコーンの抑制裁培

[要約] 平坦地でのスイートコーン抑制裁培は、9月上旬に収穫するには7月上旬に、10月上旬に収穫するには7月下旬に播種する。また、播種晩限は8月中旬で、11月上中旬ごろの収穫となる。品種は、穂重が重く、倒伏に強い「ゴールドラッシュ 90」が適する。

[担当] 山梨県総合農業技術センター・栽培部・野菜科・窪田 哲

[分類] 技術・普及

[背景・ねらい]

本県平坦地におけるスイートコーン生産は、ハウス、二重トンネル、一重トンネル、露地と栽培されているが、9月以降の出荷は行われていない。そこで、本県のスイートコーンの生産量をさらに拡大するため、秋の行楽や収穫祭などのイベント需要に対応した9月～11月出荷の抑制作型について検討し、本県スイートコーンの作期拡大技術を確立する。

[成果の内容・特徴]

1. 平坦地でのスイートコーン抑制裁培の播種期と収穫期の関係を明らかにした（図1）。
2. 9月上旬に収穫するためには7月上旬に、10月上旬に収穫するためには7月下旬に播種を行う（表1）。
3. 播種晩限は8月中旬で、その時の収穫時期は11月上中旬となる（表1）。
4. 品種は、穂重が重く、倒伏に強い「ゴールドラッシュ 90」が適する（表2、3）。

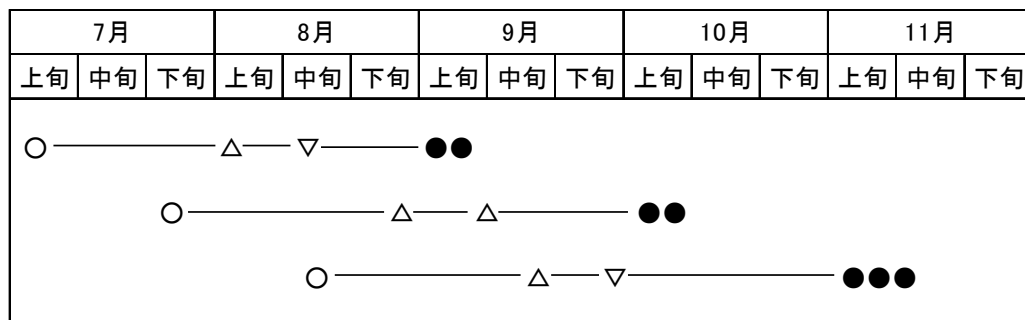
[成果の活用上の留意点]

1. 試験は総合農業技術センター内の圃場（標高 315m）で行った。
2. 高温期の播種では出芽率の低下が懸念されるため、播種量は2～3粒とする。
3. 早出し栽培に比べ病害虫の発生が多いため、適期防除に努める。
4. 台風の発生時には、排水や防風の対策を行う。

[期待される効果]

1. 抑制作型が確立することで出荷時期が拡大する（5月～11月）とともに、生産量も増加する。
2. 秋の行楽シーズンに良質な県産品が供給され、秋期の新たな観光資源となる。

[具体的データ]



○: 播種 △: 雄穂抽出期 ▽: 絹糸抽出期 ●: 収穫

図1 平坦地における抑制栽培の栽培暦

表1 品種ごとの播種日と収穫日の関係

品種	播種日	収穫日									
		2017年				2018年			2019年		
		7/3	7/26	8/16	8/23	8/13	8/20	8/27	8/13	8/20	
ゴールドラッシュ90	9/6	10/7	11/10	—	10/25	11/11	—	10/24	11/8		
キャンベラ90	9/5	10/5	11/10	—	10/24	11/11	—	10/20	11/5		

※表中の「—」は収穫に至らなかったことを示す ※総調査品種数は8

表2 品種の果実特性

品種	播種日	2017年8月16日		2018年8月20日		2019年8月20日	
		穂重	先端不稔	穂重	先端不稔	穂重	先端不稔
		(g)	(cm)	(g)	(cm)	(g)	(cm)
ゴールドラッシュ90		396.3	0.1	458.9	0.0	409.5	0.1
キャンベラ90		341.3	0.4	402.3	0.1	399.0	0.8

表3 品種の違いによる生育ステージごとの倒伏程度

品種	生育 ステージ	倒伏程度 ^z		
		雄穂 抽出期	絹糸 抽出期	収穫 10日前
		ゴールドラッシュ90	2	2
キャンベラ90	4	4	4	

z: 倒伏程度 0(無)~5(甚) 2017年9月18日の台風に遭遇後調査

[その他]

研究課題名：スイートコーンの生産拡大に向けた作型開発および栽培技術改良
 予算区分：県単（最重点化） 研究期間：2017~2020年度
 研究担当者：窪田哲、長谷川茂人、志村貴大、五味敬子、渡辺淳